



こうべ森の学校だより

No.68
2016年1・2月号

発行人：こうべ森の学校 編集委員会

発行所：神戸市北区山田町下谷上中一里山 4-1

神戸市森林整備事務所内

Tel: 078-371-5937 Fax: 078-371-1087

2016年の始まりです

代表 木下英吉



昨年の月例会は天候に恵まれないこともあり、例年より出足が悪かったようです。しかし、大きな怪我や事故もなく1年を終えることができ、何よりでした。これも会員皆様が常に丁寧な行動を心掛け、活動を続けられた結果と考えます。

私達はマンパワーを結集して森の保全に携わっています。チームワークの観点から、引き続き“安全”と“コミュニケーション”を重視しながら、活動を続けていきます。改めて基本ルール・安全マニュアル等を振り返り、活動中には手元・周りに目配り・気配りをし、“仲間への声掛け”もお願いします。

森の学校活動の基本は“森の手入れ”で、林床に日差しが届き、多様な生命を育む豊かな森づくりを目指しています。昨年は、“コンパクトで丁寧な集積”や“鋏使用時は地際で水平に切る”等を月例会でもお願いしてきたところです。これは次の芽生えを促し、多様な生き物

の棲み家となることを期待し、また、他の仲間も入る作業地の安全面に配慮してのことです。これにより、月例会地内がすっきりと見渡せるほどになっており、引き続き今年もこの“森の手入れ”を念頭に置いて活動に臨みたいものです。

現在、森の学校での各行事は、スタッフを中心に運営しているところですが、昨年秋の“森の文化祭”では、当日何名かの会員に参加していただき、共に執り行いました。みなさん、楽しく一日を過ごされたことでしょう。“東お多福山草原保全・再生活動”においても、何名かの会員に関わっていただいています。このように、森学の会員であれば誰でも行事に参加できますので、是非、共に楽しい一時を過ごしましょう。

また、今の活動メニュー外でも「こういうのはどう？面白そう!!」のアイデアがあれば、スタッフまで提案してください。会員のみならず、一般市民が気を向けそうな内容を取入れてチャレンジすることも面白いでしょう。森の保全活動に携わっていることによって、各々で受止めかたが異なりますが、“森から何らかの恩恵を受けている”と察します。この面白さ・楽しさをより多くの市民の方々に伝えたいものです。



平成 28 年 1 月 9 日例会の集合写真

安全祈願



ログハウス前で安全祈願

1月7日、年初の登校の日に安全祈願を行いました。

林さんの司会進行、近藤さんの詔で執り行われました。

事故やケガは一瞬の気の緩みで生じることが多いです。参加者一同、本年も安全に活動できるよう祈願いたしました。

高取山 荒熊神社に再度山の桜を植樹



苗圃での作業

高取山の荒熊神社の境内に阪神淡路大震災慰霊祈念のサクラを植樹することになり、こうべ森の学校の苗圃で育てたヤマザクラ、ソメイヨシノ、ヤエザクラ合計30本が提供されました。1月16日に大きく育った苗を掘り起こして、翌日の高取山での植樹に備えました。



植樹作業

今回の植樹は、こうべ森の学校、ブナを植える会、滝川中学・高校インターアクトクラブ、板宿商店街連合会青年部の協力によるものです。おごそかな神事後、心を込めて植樹しました。最後に標柱を設置して午前中に行事を

終えることができました。何年かのちに春の高取山が桜の花でいっぱいになることを願いつつ、山をあとにしました。



標柱の設置

花博展示発表

晴天に覆われた平成28年2月11日、大阪・鶴見緑地公園の花博記念ホールで開催された、(公財)国際花と緑の博覧会記念協会主催「第4回みどりの交流広場」に参加しました。大阪府・兵庫県・奈良県・京都府から、自然と関わる様々な分野で活動している19団体が、イベントの開催趣旨である“自然と人間の共生”をテーマに、それぞれの事例発表やパネル展示を行いました。



鶴見緑地

事例発表では、“里とまちをつなぐ”・“くらしと文化・風土をつなぐ”・“人と自然をつなぐ”活動の3つのセクションで、日頃の活動内容を興味深く・熱く伝えていただきました。発表団体への質問では、活動内容の詳細や抱えている苦勞等が出て、共通の課題を持っているようでした。森学は、今回が初参加でパネル展示のみでしたが、来場の方々や展示団体と活動内容を相互



パネル紹介

に伝え、普段とは違った目線での自然との関わり方に接することができました。兵庫県からは、昨年「淡路景観園芸学校」見学の案内でお世話になったNPO法人アルファグリーンネットも参加されていて、その時のお礼と挨拶をさせていただきました。また、終了後の交流会では、他団体と直接話すことができたので、互いに活動の様子を本音を交えながら情報交換をすることができました。



森学パネル

当イベントは、参加団体が今後広まると思われ、この機会を通して今後の交流や活動のあり方等に役立つことでしょう。良い経験ができました。



事例発表ホール

神戸市立竹の台小学校の体験授業

年明けに、県神戸農林事務所→整備事務所を通じ、体験授業受入れの依頼がありました。5学年が「国土の環境を守る(森林とわたしたちの暮らし)」授業の一環で、自然を守る取組みについて学び、2月下旬に当小学校にて全国教員向けに開催される教育公開授業研究会で、学習発表をする予定とのことでした。森学では、小学生の受入れは初めてで、その上63名という大人数のため慎重且つ多面的に検討しました。自然の素晴らしさ・面白さ、森林を育て守る取組みを体感して、この若い世代から自然に関心を持つ一助になればと、受入れることとしました。



ログで事前説明

立春の2月4日、5年生(2クラス)63名と学校長外3名の先生が訪れました。心配していた天候も朝方は冷えたものの、絶好の観察・作業日和で児童達の表情も生き活きと映りました。ログハウス内での森の保全グループからの説明に始まり、森学の紹介等の後体操をして、先ずは森の観察です。12班(5~6名ずつ)編成で各班にスタッフが1人付き、予め要請があった



玉切り

○六甲山が全て自然林でないが、いつ、なぜ、どのように植樹したか○普段、再度公園でどんな活動をしているのか? ○なぜ、そのような活動しているのか、その原動力は? ○活動の中で苦勞していること、困っていることは? ○伐採材の利用方法は? 等を主に説明を加えながら、背山とマザーチェリー方面の周遊コースを時計・反時計周りの4班編成で出発です。事前にスライドで説明した木々や場所を見つくと、「オー!! ウンウン!!」と、より理解できたようで、ある班では樹木名を7種類も「これ何々だよねー!」って、覚えていました。

昼は、全員班ごとにログハウス前に個々の敷物上に座り、楽しい弁当タイムで



枝払い

す。この時なんと、常々お世話になっている伊藤ハム(株)から2名が来られ、売れ筋ソーセージを湯がいてのサプライズがありました(10本食べた児童も居たとか?)

ありがとうございました!!)。私も担当班で共に弁当を食べ、普段の学校生活の話して盛り上がり、あっという間に昼食が終了です。

午後は、少花粉杉場辺りで森の手入れ体験です。慣れない手つきで、ヘルメットと鋸・剪定鋏を着けたベルトを装着し、作業地への途中では午前中に習ったものを見て、声を出しながら復習です。班毎で、まず一人が伐採を試み、枝払い・玉切り・集積の行程を分担しました。その後、1人ずつ伐採を体験、短時間ながらも、終わりの頃には鋸・鋏さばきも様になっているようでした。終了後、ログハウス前に集合して質問・感想時間です。質問が止まない状態のうちに体験授業終了となり、全員怪我もなく無事小学校に帰りました。

週が明けて、2月9日に森学に登校すると、なんと参加児童全員から体験授業の感想が届いていました。それぞれの素直な思いがよく伝わり、スタッフの説明内容もよく理解していることがわかりました。当日参加のスタッフは、「どんな評価をされているか!」1枚ずつ真剣に目を通していました。

ほとんどの児童が初体験だったと察しますが、自然に接した感想を持ち続けて、後に思い起こしていただければと思います。今回の体験が、学習発表の一助となれば幸いです。参加スタッフの皆さまも、安全面等緊張の中にも若々しい元気に触れて、良い体験をされたことでしょう。



終了時ログ前にて

宮城県の仮設住宅で年末掃除と“ゆりりん愛護会”に支援金贈呈

木下 英吉

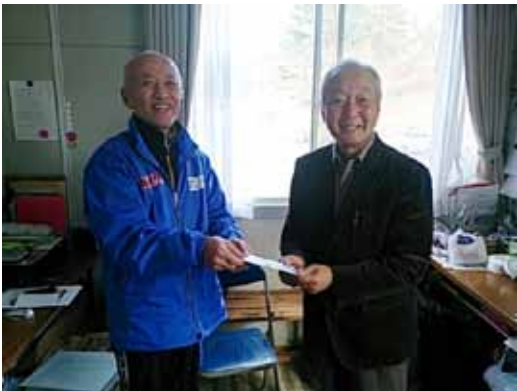
12月22・23日、ひょうごボランティアプラザの35回目となる東北ボランティアバスに17名(20～77歳)が駆け付けました。宮城県東松島市・名取市・気仙沼市・登米市(南三陸町志津川地区の被災者が入居)の仮設住宅で、予め要請があった60程の世帯へ、普段



気仙沼市の仮設住宅にて

気になりながら手の届かない照明・空調・換気扇・窓ガラス等の清掃を2～3人一組で行いました。作業中・作業後には、短時間ながらそれぞれでの話しも交えながら、天候に恵まれたこともあり、室内外の希望箇所を余すところなく行うことができました。

22日(火)午後に入った名取市箱塚桜団地仮設住宅で昼食を取り、この時間帯に“ゆりりん愛護会”への5度目となる支援金贈呈のため、大橋会長に当仮設住宅



大橋会長に支援金贈呈

までお越し願いました。津波で全滅した閑上海岸の黒松から取った松毬を京都府で育て、閑上に移植して3年が経ち、今年元の場所に3,000本植える事。愛媛県西宇和郡伊方町名取地区から、先祖(400年前仙台藩主伊達政宗の嫡男である伊達秀宗が、徳川秀忠より伊予宇和島藩10万石を与えられ、初代藩主として御国入りの際に名取郷の民を連れて入り、其の地を名取と呼ぶよう命じたという)が暮らした被災地を応援したいとの思いで、2011年4月名取市に義援金が送られました。

大橋会長が昨年7月伊方町の名取地区を訪れ、同地区との交流をと大橋会長が代表となり市民レベルで交

流の会を立ち上げた事(将来的には自治体レベルでの交流を目指し)。

この名取がある佐田岬半島の松林が弱っていて、名取市閑上で育苗中のものを100本程移植した事。等々、30分程の中で近況を熱く伝えていただきました。慌ただしい中での支援金贈呈となり、誠に申し訳ないながらも、またの再会をお願いして失礼しました。

その後、掃除に入ったお家では、「災害公営住宅の抽選に当たり入居の目途がついたが、近所では私だけが当選していて、手放しでは喜べない」と、複雑な胸の内を聞かせていただきました。

23日(水)午後に入った登米市イオン南方店跡地仮設住宅は、南三陸町内で仮設住宅用地が確保できないため、登米市内に用地を借受け入居されています。

昨年に続いての訪問で、自治会長ご夫妻を始め入居者の方々に笑顔で出迎えていただきました。

作業後、自治会長から「第2期南三陸町災害公営住宅の入居募集で、現在仮設住宅で入居している200世帯の内1/3程が空き家となる。喜ぶべき事だが、反面、残る人たちのこと等が交叉して複雑になることもある。でも、これが現実と受止め、日々の生活を送っている」と、住み慣れた地を離れ、その上コミュニティが寸断されつつも、頑張っている日常の様子を参加者全員に話していただきました。その後、ボランティアからの挨拶ということで私が述べることとなり、参加者の思いや本日の様子を話しているうちに、入居者方々との会話や顔が思い出され、目頭が熱くなり声を詰まらせる一コマも。

当主催者は来年末もバスを出す予定で、私達も数少ない機会だが訪問を続け、その時々に移り変わる様子や思いを伝え続けたいです。



登米市の仮設住宅にて

六甲の野鳥撮影の記録 (その 10)

日本野鳥の会会員
全日本写真連盟会員

村瀬 眞一郎

今回は前回に引き続き、オスとメスで違いがよく分かる写真を載せています。

[オオマシコ]

オスは、頭からお腹は赤色、翼は黒褐色です。生れて数年たった成鳥の頭からお腹は鮮やかな赤色で、頭上と首は白くなるのが特徴です。

メスは、全体的に赤茶色っぽく地味です。



オオマシコ(オス)



オオマシコ(メス)

[ベニマシコ]

オスは、頭～背中が深紅色、お腹は赤色、翼は黒色で、2本の白帯があります。オオマシコより少し小さい赤い鳥ですが、翼に2本の白帯が目立つので、区別できます。

メスは、全体的に褐色で黒い縦斑があります。



ベニマシコ(オス)



ベニマシコ(メス)

[キビタキ]

オスは、頭～背中が黒色、眉は黄色、翼に白斑、胸～お腹は黄色です。黒と黄の対比が鮮やか。メスは、全体的に灰褐色をしています。何の鳥かよく分からないことがあります。



キビタキ(オス)



キビタキ(メス)

[サンコウチョウ]

抱卵中の写真です。オスとメスが、約30分交代で抱卵します。矢印のように、雌雄で尾の長さの違いが分かります。

オスは、頭部から胸にかけて黒く、背、翼、尾は黒褐色、嘴や目の周りが青色です。胴体はスズメ位ですが、尾は40センチ位です。

メスは、全体的に茶褐色で、尾は10センチ位です。



サンコウチョウ(オス)



サンコウチョウ(メス)

[イソヒヨドリ]

オスの頭から背中にかけて青色、お腹はオレンジ色です。海辺の鳥ですが、北区の住宅街に来て、綺麗な声で鳴きます。

メスは、全体的に茶色や灰色をしています。オスに比べあまり見かけません。

なお、ヒヨドリとは全く別の種類です。



イソヒヨドリ(オス)



イソヒヨドリ(メス)

※ 余談ですが、今年はサル年です。オオマシコ、ベニマシコは、その赤色から漢字で、大猿子、紅猿子と書きます。

27年度兵庫県森林ボランティア講座上級編を受講して

東灘区 長塩 正之

以前森林ボランティア講座を受講した時は、まだ初級、中級、上級の区別がされていなかった、平成20年でした。その翌年から、こうべ森の学校に通い始めてはや6年になります。幸いにもこうべ森の学校からの推薦も頂くことが出来たので、今回は上級編を受講いたしました。

さて、本題である講座の内容や感想を述べる前に、平成20年の受講修了の記念に、緑色のヘルメットを頂いたことで、私の森林ボランティア活動が始まりました。当初は森林ボランティアと言っても誰が何処で活動しているのかも良く知りませんでした。縁あって、こうべ森の学校を訪ねたのは平成21年4月でした。そうして私の活動は今に至っています。決して皆勤優等とは行きませんが、以来6年間の経験を積み、その間にも六甲グリーンベルト整備事業「森の世話人」の一員として、六甲ジョウビタキの会にも加わるなど、森の活動が広がっていき



伐倒指導の一コマ

ました。当初私は、上級編だから伐倒技術とか、動力機の扱いなどをみっちり叩き込まれるものと想像していました。でも実際は違いました。というか、講座が進んでいくうちに、自分が描いていたリーダー像ではない別のリーダー像が見えて来ました。

そして、その「求められるリーダー像」は今までの森の手入れのスキルとはまた違った角度から見た、森林ボランティアリーダー像ともいえました。

そのひとつは、安全に対する心構えです。「怪我と弁当は自分もち」と言われるボランティア活動ですが、「怪我」や「事故」「病気」は当事者のみならず、ご家族や活動グループ全員にとっても、絶対避けなければいけません。その点でリーダーの責務は重要です。講座では危険を予知するスキルを身につけることを教わりましたが、一朝一夕に身に付くものではありません。また、そんな視点で森での活動を考えると、危険が「山盛り」です。「君子危うきに近寄らず」では森の手入れが進みません。

リーダーとは、こうしたジレンマに打ち勝って、メンバーを安全に森へ導き、森の手入れを進め、森の恵みを

受けつつメンバーと時間を過ごし、安心と満足のうちにメンバーを帰るのが仕事なのです。即ち降りかかる



グループワークの成果を発表

危険を「何が」「いつ」「何処が」「誰が」「どのように」を判断（予知）して回避することが求められます。しかも、眼差しと、口調は常におだやかで有りたいと思うと、なかなかの修養になります。

ふたつ目は、講座を通じて何度も行ったグループワークにありました。「思い」を実際の活動に向けて、具体化するために「組み立て」を考えることでした。少人数で横造紙とポストイット（のり付きメモ用紙）を使って、思いつく事を各自が出し合い、まとめて行く手法です。これは森の中でのスキルからは完全にはなれ、マネジメントのための手法でした。リーダーとは言い換えれば、森の管理者でありボランティア全体のマネージャーとも言えます。

メンバーが森で、安全に楽しく活動できることを考えるとき、森の手入れについてのスキルだけを向上させてもそれは成就しがたいことに気づかされました。必要なのは森の内外を問わず、幅広いネットワークを持ち、それを活かせることです。メンバーが安心して活動できる雰囲気を出すためにも、事前の段取り、活動中の目配り、事後の振り返りが大切なこと。リーダー自身が考え、メンバーを巻き込み、森という自然とボランティア、また地域の住民にとっても何が良いのかを探る。少し広がり過ぎましたが、これもリーダーの責務であります。

「木を見て、山を見ず」ということわざがありますが、森林ボランティアリーダーというのは、それではいけません。「山を見て、木を見て、人も見る」のがホンマもんとすることを学んだ講座でした。これからも、精進を重ねて参ります。



課題について真剣に討議

森の保全研修（掛かり木処理）

安全衛生委員会では、活動の安全確保をより確かにするため、スタッフを主に安全研修を行っているところ



ログハウスでの座学

です。今回は、月例会でも経験があるかと思われま

すが、「掛かり木処理」について、保全グループから同じメニュー（午前一座学・議論、午後一実習）を3回実施しました。

初回は、11名の参加者で“少花粉杉”植樹の南エリアで、混み合っている桧を選木して試みまし



レバブロックの講習

た。今回は、月例会でも経験があるかと思われま

すが、「掛かり木処理」について、保全グループから同じメニュー（午前一座学・議論、午後一実習）を3回実施しました。

初回は、11名の参加者で“少花粉杉”植樹の南エリアで、混み合っている桧を選木して試みまし

掛かり木を揺らすようにロープを引き・緩めを繰り返し倒すことができました。これだけで40分程かかり、枝払い・玉切り・集積の一連作業で、この日の研修は終了となりました。なお、伐倒木を有効利用するため、2m×3本を道路付近に運び出し、皮むきまでを施しました。



掛かり木処理の現地研修

掛かり木は、伐倒木が高い位置で周囲の樹木に寄り掛かり、何時・どこに倒れるかわからないフェリングレバーで木を回転させる処理法非常に危険な状態です。掛かり木にならないように、選木・伐倒方向の障害除去・方向のコントロール等事前準備を惜しむことなく行いましょう。



フェリングレバーで木を回転させる処理法

非常に危険な状態です。掛かり木にならないように、選木・伐倒方向の障害除去・方向のコントロール等事前準備を惜しむことなく行いましょう。

森林植物園とんどやき

1月11日、神戸市立森林植物園にて「とんどやき」が開催されました。森林植物園長、実行委員長のあいさつに続き、阪神淡路大震災の犠牲者の追悼のため全員で1分間の黙とう、そして真野響子名誉園長のあいさつの後、点火となりました。高さが20mもある巨大

な「とんど」は、一気に炎に包まれ30分ほどで焼け落ちました。参加者には豚汁や弓削牧場のミルクがふるまわれました。



勢い良く燃える「とんど」

シリーズ 私のヒヤリハット ⑦

作業地での高枝鋸の置き場所に注意!!



高枝鋸作業

2015年12月20日（日、例会日）10時20分頃 例会4区作業地 晴れ

作業地に到着後、会員の手荷物置場すぐ近くの立木に“高枝鋸”を立掛けてありました。

「ヒヤッ」とした訳ではないが、もし高枝鋸に接触したり強い風でもあ

れば、倒れて近くの会員に当たり、怪我をする危険性があります。長尺物は、少しの衝撃があっても倒れないよ

うに置くか、予め横に置くようにすれば良いと思います。「上にあるもの、いつかは落ちる」、「立ててあるもの、いつかは倒れる」、落ちないように、倒れないように、『危険性を排除き、安全第一で』



高枝鋸は立掛けない

落ちてよいように、倒れてもよいようにしましょう。
※ 高枝鋸自体の重量が3kg強あり長尺なので、倒れた際に当たり所が悪ければ、大きな怪我に至る場合があります。置き場所は辺りを見回し、高さ等安定性の良い位置を選ぶように留意したいものです。

■前々回・前回の報告

日付	参加者	司会	午後・森の手入れ	木工工作	自然観察	苗づくり
12月20日(日)	86名	林さん	20名	40名(リース作り)	5名	3名
1月9日(土)	74名	黒子さん	26名	21名	6名	10名

■豚汁とぜんざいの提供

12月の例会時に、恒例の豚汁の提供がありました。寒い季節にとってもありがたい企画です。とても美味しく、あっと



熱々の豚汁の提供

いう間に完食となりました。午前の森の手入れを早めに切り上げて、フライング気味の班もあったようです。

1月の例会では、ぜんざいの提供がありました。会員さんが持ち寄った餅を再度炭で丁寧に焼いて、ぜんざい



再度炭での餅焼き

にさせていただきました。甘いぜんざいでエネルギー補給をして、午後からの活動により一層励むことができました。

■東お多福山草原再生プロジェクト

平成28年度 東お多福山草原再生研究会 活動日程が決まりました。

- 4月16日(土) 早春のネザサ刈り
- 17日(日) 予備日
- 5月25日(水) 春の調査及び外構部の刈り取り
- 26日(木) 予備日
- 7月20日(水) 調査及び外構部の刈り取り
- 21日(木) 予備日
- 10月5日(水) 秋の調査及び外構部の刈り取り
- 6日(木) 予備日
- 11月23日(水) 晩秋の調査及びネザサ刈り
- 24日(木) 予備日
- 12月10日(土) 晩秋のネザサ刈り
- 11日(日) 予備日

多くの方の参加をお待ちしています。

お知らせ・掲示板

♠バスの運行

神戸市バス25系統(三宮～森林植物園)は12月～3月の間、運休しています。

そのため、こうべ森の学校がある再度公園には阪急バス61系統(神戸駅南口～鈴蘭台)をご利用ください。水源池バス停で下車、徒歩25分です。

平成26年度から再度公園駐車場が無料開放されています。こちらもご利用ください。

♠こうべ森の小学校 & 森のようちえん

次の開催予定日は3月27日(日)

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠摩耶の森クラブ

次の開催予定日は3月26日(土)

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠ボランティア保険に加入していますか

森の手入れの作業中の事故に備えて「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済保険」への加入手続きをされていますか。掛け金は500円の負担で補償期間は4月1日から翌年3月31日までです。受付窓口はお住まいの市区町社会福祉協議会です。

会員活動の開催予定日

・月例会 3月12日(土)・4月17日(日)

午前中は全員で森の手入れを行います。午後は自然観察・木工・苗作り・森の手入れから選択をしていただきます。

・上記以外の火・木・土曜日も活動しています。

「こうべ森の学校」は、発足当初から物心両面にわたり伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受けて運営されています。

編集後記

1月の森の手入れの時、梅林の梅が咲いているのを見つけて、暖かい冬だとびっくり。これだとマンサク、クロモジも……。ところがそのあと、寒い冬はやってきました。植物にとって冬の低い温度は大切だそうです(?)。よかった。私見ですが、熱燗もおいしくいただくには冬

が寒くないと……。なんてことも思います。

今年、これから2月、3月、4月……と続いていきます。自然の移っていく様子はどうなりますか、どれだけ自分の目でとらえることができるか楽しみです。

観察に気をとられても「安全対策はしっかり」はもちろんのことですね。(H.F)